

学校教育目標 「心豊かな中学生」「自ら学ぶ中学生」「活力あふれる中学生」



常盤のみどり

第472号 令和5年 2月 1日(水)

さいたま市立常盤中学校

〒330-0075

さいたま市浦和区

針ヶ谷4-1-9

TEL 048-831-3189

FAX 048-830-1561

E-mail:tokiwa-j@saitama-city.ed.jp



SINCE 1947



誰かのために

校長 渡邊 祐子

まだまだ寒さの続く毎日ですが、スロープ脇の紅梅のつぼみが、このところ日に日に膨らんで花開き始めています。暖かな日中の日差しに、すぐそこまで来ている春を梅の木も感じているのでしょう。

校舎裏、常盤北小学校から延びる八朔。小さな白い花から生る実は甘みと酸味と苦みをもち、2、3月が食べ頃。花言葉は純潔。

さて、今年5月の連休明けには、長い間私たちの生活に様々な制約を加えていた新型コロナウイルスが、季節性インフルエンザと同様の感染症法の位置づけになるとの発表が先ごろありました。これまで、感染症防止対策として人との距離の取り方や向き合い方等、周囲の方々の接し方にまで気を配ってきた私たちですが、やっと新たな段階へ生活が変わる兆しが見えてきたところです。

そんなコロナの状況下、「利他的な行動」という言葉を耳にする機会が何度かありました。感染防止はもちろん、地球環境のためにも、自分のことだけを考えているだけでは解決しない、よりよい世界・社会の実現のためには人との関係性を考えることが不可欠といった捉え方です。文字通り、利他＝自分のためではなく、人のために何かをしようとするのは、とてもいいことですし、この間、若者たちの社会への寄付行為が増えたという報道もうれしいものでした。

とにかく、窮地に立たされると人は心の余裕を失い、「自分のため」を第一に考えて行動しがちです。しかし、そこは慌てず、落ち着いて、周りの人のことを考え、「人によかれ」という心で取り組むとどうでしょう。周囲の協力も得られ、広い視野で判断することができ、結果として、自分も含め、誰にとってもよい方向に道はつながるのではないのでしょうか。

実は、他人のために行動すると人々の幸福度は増すという研究結果があります。その調査によると、研究者から渡されたお金を、自分のために使うよう指示されて自由に使った人たちよりも、他人のために使うように指示されて何かを買った人たちの方が、平均的に幸福度が高まったということです。これは実験をした国々（豊かな国も、そうでない国も、もちろん日本でも）、対象とした年代、全てにおいて同じ傾向だったということです。

コロナ禍、人との関係を意識してきた私たちだからこそ、その歳月から学んだことを大切に、この先も忘れずに行動に移していこうと思います。